

■明日から冬休み

12月21日(木)から1月11日(木)まで冬休みとなります。この冬休み中に徹底的に1・2学期の復習をして苦手克服に努めましょう。なお、後の記事にもありますが、3年生で大学等の一般受験を控えている諸君は、追い込み・まとめの時期です。残された時間を大切にしてください。では、年明けの1月12日(金)に元気に登校してくることを期待しています。



■大学入学共通テスト情報

大学通信発行の「UNIV PRESS NEWS」特別号(2023年12月11日号)から大学入学共通テストの最新情報をお伝えします(以下に引用)。3年生で受験する人は情報をよく確認して臨んでください。

2024年1月13日(土)・14日(日)の2日間で実施される大学入学共通テストの確定志願者数が発表された。総志願者数は49万1913人で、前年の志願者数より2万668人(4.0%)減となった。

内訳は高校等卒業見込者(現役生)が41万9533人で1万7340人(4.0%)減。高校等卒業者(既卒者)は6万8220人で3422人(4.8%)減、その他(高卒認定等)が4160人で94人(2.3%)増だった。現役生、既卒者ともに減少したのは前年同様だが、現役生は前年の2.8%減から減少幅が拡大した。一方、既卒者は前年の6.7%減から減少幅が若干小さくなっている。

来春卒業見込みの現役生は今春より約4万2千人(4.4%)減少し、前年の2.7%減からさらに減少幅が拡大。一方、高校等新規卒業見込者に対する共通テスト志願者の割合(現役志願率)は前年から0.1%拡大し45.2%で過去最高となった。全志願者に占める現役生の割合も85.3%(0.1%増)と若干増加している。また、女子の割合は45.2%で、前年より0.2%増加した。現役生は前年より0.1%増、さらに既卒者が前年の28.8%から1%増加した影響が大きい。

出身高校が所在する都道府県別の志願者数では、東京が最多の6万6021人。以下愛知、神奈川が3万人台、大阪、埼玉、千葉、兵庫、福岡が2万人台で続く。逆に少ないのは鳥取の2294人で、島根、高知、徳島も2千人台だった。

確定志願者数と同時に発表された2024年度共通テスト利用大学は707校(国立82校、公立95校、私立530校)で、公立1校増、私立5校減で前年より4校減。このほか専門職大学10校(公立2校、私立8校)も参加しており、こちらは前年より私立が2校増となった。

今回の共通テストは、追試験が本試験の2週間後に実施される。前年までのコロナ禍3年間は追試験が特例として各都道府県で実施されたが、今回は東京と京都の2会場のみでの実施となるので、注意が必要だ。

1月はインフルエンザや風邪などで体調を崩しやすい時期でもある。生活リズムを維持し、万全の状態です試験に臨もう。

■大学の一般入試に向けて

1月13日(土)～14日(日)の大学入学共通テスト以降、大学の一般入試が本格化していきます。それに向けて、学習面、生活面について、最低限のことですが、アドバイスしておきたいと思います。少しでも参考にして、悔いの残らない受験にしてください。なお、受験校の入試情報をよく確認し、十分に対策を講じたうえで本番に臨みましょう。



〈学習面〉

- 教科・科目にもよるのですが、基本的には、これまで積み上げてきたものを信じて、例えば、英語であれば、単語集・熟語集、文法問題集、構文集などを繰り返し徹底して復習してみましょう。問題集や模試などでミスしたところにマークなどを施しているのであれば、そこを徹底して確認するというのも方法です。また、日本史や倫理・政経などは、直前まで追い込みが効く場合があります。最後まであきらめずにがんばりましょう！！
- 実践的な問題(赤本など)に取り組む場合は、自信を失わないように注意しましょう。もしできなかった箇所があれば、必ず解答・解説にじっくりと目を通して、よく確認しておきましょう。分からないままにしておくのは、最もまずいことです。

〈生活面〉

- どうしても夜遅くまで学習する習慣が身についてしまっている人が多いと思いますが、人間の脳は、起床してから3時間以上たたないとしっかりと働かないとも言われますので、実際の入試に向けて、冬休みのうちから、試験開始の時間から逆算して早起きする習慣をつけておきましょう。
- 暴飲暴食は避け、規則正しい生活をするように心がけましょう。当然、風邪やインフルエンザ、感染性胃腸炎なども要注意ですが、今年度も新型コロナウイルスに感染しないよう、十分に対策をして試験会場に行くようにしましょう。日々の体調管理を怠らず、万全の健康状態で臨みましょう。

〈試験当日〉

- 最寄り駅周辺は多くの受験生で混み合うことが考えられますので、早めに会場に到着できるよう、若干、余裕を持って出発するように心がけましょう。例えば、東京都内の大学を受験する場合、同じ駅に複数の大学があるケースもありますし、大学の建物が乱立していて「会場がどこか分からない」と迷ってしまうこともあるかもしれません。多くの生徒がスマートフォンで位置情報を確認しながら会場に向かうものと思われそうですが、受験会場を間違わないよう注意してください。大学によっては、かなり多くの受験生で殺到するケースもあることでしょう。そんなとき、多くの受験生に圧倒されないことも大事です！！

■合格体験記

今回から3年生の合格体験記を掲載していきたいと思います。1回目は群馬パース大学に合格した酒井春人さんです。少しでも参考にしてください。

【合格体験記】 酒井春人さん（3年2組）
群馬パース大学医療技術学部臨床工学科（指定校推薦）

僕は、群馬パース大学の医療技術学部臨床工学科に学校推薦型選抜の指定校推薦で受験しました。この大学を選んだ理由は、実習の時間がとても多く、先生方がとても優しく丁寧に教えてくれるという話を聞いていたからです。



受験の際の試験内容は、1時間の基礎学力試験と面接のみで、基礎学力試験は国語、数学、英語の3教科でマークシート方式でした。問題も難しいわけではなく、面接も優しく聞いてくれるので、リラックスして臨めば大丈夫だと思います。

受験に向けての準備としては、面接練習をメインに行い、学力試験はホームページに載っている過去問を解きました。当日は、面接ノートを見返したりしながら気持ちを落ち着かせようとしていました。

最後に、アドバイスとしては、学力試験は落ち着いてやれば答えられるものばかりなので、普段の定期テストと同じような気持ちで準備をすれば大丈夫です。面接も自信を持って元気に答えられれば良い印象を与えられるのではないかと感じました。後輩の皆さんは大変だと思いますが、志望校合格を目指して頑張ってください。

■今年度の大学入試から

大学入試における学校推薦型選抜の指定校推薦について感じたことを前回に引き続き、2点書きたいと思います。



1点目は、今年度本校に来ていた指定校推薦の枠の中で、専修大学経営学部ビジネスデザイン学科がありました。なかなかハードルが高く、結局希望者がいませんでした。ちなみに今年度の条件は、「全体の学習成績の状況が4.0以上であること」、「英語の学習成績の状況が4.0以上であること」、「国語、地理歴史、公民の学習成績の状況が4.2以上であること」でした。上記の条件をすべて満たさないと受験資格を得ることができず、厳しい条件だったと言えます。次年度も枠をいただけるか、いただけたとしても条件がどうなるか分かりませんが、2年生で受験を考えたい人は少なくとも上記の条件をクリアできるようにしっかりと準備をしておきましょう。

2点目は、有名大学でも女子大学は比較的入学しやすくなっているということです。フェリス女学院大学が指定校推薦2期で本校に募集をかけてきました。やはり希望者はいませんでしたが、学生募集に苦労しているのだなと感じました。かなり前から共学思考が高まってきたとはいえ、10年くらい前までは考えられなかったことです。学びたい内容にもよりますが、チャンスだと受け止めて志望校の一つとして考えてみるのも良いかもしれません。

■今年を振り返って



前日も野球にまつわる話を書きましたが、今年1年を振り返ろうとしたときに、やはり年間を通して、野球の話題に事欠かない1年だったなという印象があります。

まず、3月の第5回ワールドベースボールクラシック（WBC）での日本チームの活躍には大いに興奮させられました。準決勝のメキシコ戦は先手を取られたうえに、吉田正尚選手が同点のホームランを放った後も、すぐに突き放されしまい厳しい展開でした。9回裏、大谷翔平選手が2塁打を放ち塁に出ましたが、そのときの気迫は見事なものでした。最後、村上宗隆選手の逆転サヨナラ打で劇的な勝利を収めて決勝進出を決めました。あのときの興奮は今でも忘れられません。全体的に見て、チームの精神的支柱となったダルビッシュ有投手の存在も大きなものを感じられました。非常にまとまりのあった「日本史上最強チーム」だったと言えるのではないのでしょうか。

8月に甲子園球場を舞台に開催された全国高等学校野球選手権大会では、決勝で慶應義塾高校が2年連続優勝を狙った仙台育英高校に8対2で勝利し、実に107年ぶりの優勝を成し遂げました。この優勝で、髪型が丸刈りではなく自由で長時間の練習もないこと、さらには「エンジョイ・ベースボール」が話題になりました。ここでいう「エンジョイ・ベースボール」とは、ただ野球が楽しければ良いという意味ではないようです。より高いレベルを目指して野球をやるためには地味でつらい練習を乗り越えなければならず、つらいことを乗り越えてこそエンジョイできるというような意味合いがあるとのことでした。それほど練習時間が長くなかったとはいっても、全国優勝するためには、相当中味の濃い練習、訓練の時間があつたはず。それを微塵も感じさせないさわやかさが彼らにはありました。「新しい高校野球のあり方」は今後の高校野球界にどんな影響を与えるか注目したいと思います。

11月にはプロ野球・阪神タイガースが38年ぶりの日本一を達成しました。選手に優勝のプレッシャーを感じさせないために報道陣のインタビューで岡田彰布監督がしきりに使っていた「アレ（A.R.E.）」が流行語大賞を獲得しました。今年の後半は一般社会でも何かにつけ、「アレ」が頻繁に使われていた印象があります。11月23日に大阪と神戸で行われた阪神とオリックスの同日優勝パレードは関西の人たちにとってはたまらない1日になったことでしょう。うらやましい限りでした。

12月になり、ロサンゼルス・エンゼルスの大谷翔平選手の移籍先が注目されました。今シーズンは右肘の怪我で途中離脱したものの、アメリカンリーグのホームラン王を獲得し、MVPに輝き、最終的にはロサンゼルス・ドジャースへの入団が決定しました。いろいろな予想がありましたが、ある専門家の話を聞いていて、「ドジャース濃厚」との話に説得力があり、その可能性が高いと筆者も思っていました。どうやら、ドジャースは大谷選手が高校生の頃からその可能性を買っていたようですし、エンゼルスとドジャースの地元であるロサンゼルスで6年間生活して、大谷選手にとっては居心地の良い場所になったということもあるのだろうと思われます。

3年生でこれから受験本番を迎えるみなさん、この冬休みは「アレ」を目指して追い込みに力を入れてください。春には「桜咲く」となりますことを。

文責：清水聖（進路指導主事）